

第4回学習会を、平成20年3月7日（金）19:00～20:00 教育センターにて行いましたので報告いたします。

第四回目の内容

講師 重枝一郎先生（千代中学校教諭）

- 1 1学期の理論・ビジョン・実践
- 2 エクササイズの体験活動
- 3 実践例

1 1学期の理論・ビジョン・実践

出会い

『仲良く、いい友達になろう』をすりこむ

安心感・期待感・ふれあい

実践例：「My name is・・・」「ブラインドデート」「私は誰でしょう」
「すごろくトーク」「言葉のキャッチボール」

団結力

『協力体験』をしくむ

自己存在感・所属感

実践例：「先生はどこだ」「新聞紙でチャレンジ」

友だちづくり

『マイナスのグループ化・暗い表情・表面的』にならないように支援

他者理解

実践例：「クラスの歩む道」「えんぴつ対談」「偏愛マップ」
「背中あわせと向かいあわせ」

認め合う

『よいところさがし』をしくむ

ネガティブなムード・自己中心的にならないように支援

自己肯定感

実践例：「十人十色」「よいところさがし」「担任交流」

『自己盲点』がキーワード。

自分の可能性は「気づき」の中から生まれる。

誰にでも多くの「自己盲点」がある。

だから人との交流を大切にする。

自尊感情＋自己盲点＝自己理解

1年間の見通しをたてる前に、まずは1学期のビジョンをしっかり持ち、力を入れて実践していけば、後に必ずつながっていく。2学期からは、行事にからめて実践することができる。また、同じ事を繰り返し行ったとしても、自然と中身は広がり、深まっていく。そういったことから、1学期の実践は大切である。たとえ継続的に行うことができず、トピックス的であったとしても、効果が期待できる内容である。

『安心感のない教室』は『本音』を言うことができず『お互いが注意し合う関係』はまずできない。それは、授業規律とも関連していく。例えば、授業中に私語があっても、生徒同士で改めようとする雰囲気無く、常に教師が一人で悪戦苦闘することになる。生徒同士の横のつながりがあれば、教師が注意する前に自分達で声をかけあい、改めようとする前向きな雰囲気ができる。

『教師 対 生徒』という縦の関係だけではなく、『生徒同士』の横の関係をつくることは、中学生という時期には、非常に大きな効果を生み出すことになる。

だからこそ、まずは1学期に『学級風土』をつくっておきたい。それが、『正義の通る学級』『お互いを高め合う学級』の雰囲気につながっていくのである。

『つながりに気づき→つながりに向き合い→つながりを求める』サイクルをつくることである。

また、「自己盲点」という言葉を学級で定着させ、生徒にも常に意識させるとよい。たとえば、友だちから「意外に気が利くんだね」とほめられたとする。この「意外に」というほめことばは、新しい自分のよさをまわりが認め、自分も気づくことになるので、大きな喜びを実感できる。自尊感情を高めることでもある。「意外に ～ 」というプラスの自己にたくさん気づき、うれしいシャワーをあげさせることで、自信が芽生え、気持ちが安定する。そんな場を意識的に設定することが必要である。例えば、自分の興味のないことを意図的に調べさせる。その時にも「自己盲点」をキーワードに、生徒を「その気」にさせる。すると、自分の考えを広げることになり、実は興味もっていたことに気づくことがある。このように、自分には未知の力がたくさんあるということを実感させていく。

2 エクササイズと体験活動

「My name is . . .」

4月の出会いの時期に行うエクササイズ

- ①自分の名刺をつくる(宿題にするのもよい)
- ②握手して自己紹介する
- ③ジャンケンする
- ④勝ったら名刺をもらう



参加者全員で実際に体験しました。

まず、どんな名刺にするか、自分の個性や特徴をどう表現するかが、ひとつの楽しみでもありました。

実際に受け取った名刺は実に様々で、趣味が書いてあったり、その人を象徴するイラストが添えてあったり、工夫がみられました。ジャンケンで勝つと単純に嬉しく、たくさん名刺が集まってくるのは、ワクワクする気分です。大人でもジャンケンに負けるとちょっと悔しい気分になりました。

生徒達がやると、すごく盛り上がるだろうとイメージできました。

「My name is . . .」

(ワークシートの例)

- 1 誰の名刺をもらったか。
- 2 印象に残った自己紹介は？



みんなの前でもう一度やってもらおう。(シェアリング) →全体で共有して楽しむ。

※ここでソーシャル・スキル・トレーニング(SST)に結びつけることもできる。

例えば、握手の仕方やうれしい話の聞き方などをしつける。

クラスの実態や教師側の意図に合わせて、アレンジする。

そういう発想を持つことや関連づけることを習慣化すると良い。

3 感想

「先生はどこだ？」

1 4枚の情報紙をもってコミュニケーションをとる。

「宝探し」「教室はどこだ」「バンガロー殺人事件」などと同じようなエクササイズである。

6人班なら、2人が3枚、4人が2枚の情報紙を持つことになる。1 4枚の情報紙の分け方次第で4人班などでも行うことができる。

コミュニケーション活動を行うなかで、自然発生的に「まとめ役」や「リーダー役」などの役割が生まれてくる。そこに気づかせることが、一つのねらいである。

「こうなってほしい生徒像」をすり込むことも重要である。良い雰囲気を出していたかどうかも振り返らせる。

頭をつきあわせてコミュニケーションをとらせるために、答えを書く紙は班に1枚配布する。身体が離れるので、紙の大きさも大きすぎない方がよい。エクササイズに熱中してくると、自然に身体が前のめりになったり、頭をつきあわせたりする場面がでてくるので、そこを教師側が見逃さずに生徒に伝えるようにする。

つまり、エクササイズを行う上では、教師が何をねらいとしているのかを自覚し、それをうまく生徒に気づかせ、定着させることが重要である。そのための、教師側の配慮や工夫、言葉かけや発問などが大切である。



これも実際に体験しました。

やってみるとかなり難しく、答えにたどりつかなかったグループがたくさんありました。

しかし自然に、リーダーシップをとる人が出てきました。また、「表にしてみよう」「教科を確認していこう」「方位や入口を決めよう」など、進め方のアイデアも出てきました。どうにかそれぞれの持っている情報をつなぎあわせようと、相手の言葉に真剣に耳を傾けながら、関連した情報を自分が持っていないか考え、発言しました。みんな夢中です。いつのまにか連帯感が生まれていました。答えにたどりつけなくても、「楽しかったです」「ありがとうございました」など、ゲームを終えた後に、笑顔で言葉をかわしていました。

生徒達もきっと夢中になって答えをさがすだろうと予想できます。ただ、答えがわかって良かった、わからなくて悔しかったに終わらないよう、教師がねらいをおさえることが大切だと実感

しました。大人でも、答えがわからないもどかしさがあり、正解に執着する気持ちになったからです。

例えば「まず、こうやろう」と最初に口火を切り進行役を行ったのは誰だったか？ だいたい答えがわかってきたときに矛盾がでてきて、もう一度最初から考え直そうというがっかりした雰囲気の中で、気を取り直す明るい声かけをしたのが誰だったのかなど、そこに向き合わせるのが教師の役割です。それぞれの役割が大切であることやまわりに認められることの心地よさを実感させることで、今後、集団で問題を解決するときに生かされます。行事に関連させることもできます。

理論やねらいを学習したうえで、実際に体験しておくことは、生徒にやらせるときに実感をもって話すことができるので有効だと感じました。

3 実践例

「クラスの歩む道」 学級目標

- 1 「どんなクラスにしたい？」
2人一組で5分間ずつ語る → ノンバーバルなコミュニケーションを意識させる
相手の言葉をくり返す 否定しない
付箋にワントランスずつ書いていく
5分経ったら交代する

※このような方法を**ブレインストーミング（創造的集団思考）**という

→自由に考えを出し合う
アイデアを出すこと重視
否定しない

- 2 **KJ法（グルーピングでカテゴライズ）**
6人一組で行う → 模造紙に、1で書いた付箋を同じ内容でわけて貼り付ける
付け足してもよい
やり方は、話し合いながらやる方法・黙ってやる方法がある
- 3 しばらくあたためる → 教室に掲示する
- 4 学級目標をつくろう

「十人十色」

- 1 クラス全員の両肩にシールをつける
→ 例えば、40人学級なら 右肩・・・黄3・赤10・青10・黒17
左肩・・・緑・ピンク・だいたい・紫・白 各8
- 2 両肩とも同じ色の人で集まらせる 「5人以上、みつけよう」（3分）
→ 普段の生活の中でも、全く同じような人間は、なかなかいない
- 3 右肩が同じ色で集まる 「5人以上を目指そう」（3分）
→ 3人だけのグループがある
→ 「どうしたら増える」と問いかける 「左肩だけ」という声が生徒からあがる
- 4 左肩が同じ色で集まる （3分）

- 5 シールの色で集まったけど、色の違いって何？
→ 「個性」
みんなそれぞれ考え方や見た目が違うけれど、違うからといって受け入れなかったら、このクラスは永遠にまとまらない

※年度末の、クラス替えの意識付けとしてもつかえるエクササイズである

「～をよくする人」

(例：卒業式をよくする人・体育会をよくする人・合唱コンをよくする人)

- 1 モデルの全身像に言葉を書き込ませる
例えば「卒業式をよくする人」
どんな足・・・会場準備を素早く行うためにどんどん動かす
手・・・3年生に大きな拍手をする
頭・心・口・目・耳など
- 2 クラスの実際の人を書かせる
- 3 発表させる
- 4 シェアリング (個→班)

※完成した「絵」を教室掲示する



ここで『～をよくする人』は具体的にどんな風にやるのですか」という質問が出されました。すると、重枝先生はイキイキと話し出しました。重枝先生自身も、人とコミュニケーションをとることが大好きなのでしょう。

今回の学習会の冒頭では、この会で紹介された内容を実際にやってみた先生の実践が話されました。

今後も、会に参加している先生方が自由に発言できる雰囲気をつくっていきたいと思います。

今回の学習会での「キーワード」

- 自己盲点
- 自尊感情＋自己盲点＝自己理解
- ブレーンストーミング (創造的集団思考)
- KJ法 (グルーピングでカテゴライズ)
- つなかりに気づき→つなかりに向き合い→つなかりを求める

※参加者には、「千代中学校1年生の1年間の取り組み実践資料」を渡しています。
興味のある方は事務局までご連絡ください。

♪学習会に参加された先生方の感想♪ (参加人数 38名)

- ・今回も学習会に向けてたくさんの準備があったと思いますが、重枝先生はじめ事務局の先生方お疲れ様でした。毎回思うことですが、実践を現場の研修会で学ぶ機会はなかなかないので、この勉強会は毎回楽しみです。中学生はなかなか活動に対して前向きになれない子どもも多く、このような実践だとそういった子ども達でも前向きにとらえてくれるような気がします。
- ・来年度の学年、学級での取り組みのビジョンが見えてきた会でした。実践のための大きなアドバイス、ありがとうございました。
- ・コミュニケーションを意図的に仕組む仕掛け方はいつも勉強になります。今日学習した「先生はどこだ」はとても難しいという思いをしました。しかしその中で、リーダーシップをとって話を進める人、次から次に考えを述べ、だんだん答えに近づいていく人、人と違う視点からアプローチする人など、それぞれの人がそれぞれの持ち味を出し、人の特性に気づく機会となりました。これからも参加し、自分の中でできることを1つでも挑戦していこうと思います。自分で実際にやることで、気づくやり方やアレンジにも挑戦してみたいです。次回までに1つでも多く活動していこうと思います。ありがとうございました。
- ・1つ1つの活動にしっかりとしたねらいがあることが大切だと感じました。今日の「先生はどこだ」の活動も夢中になってやっていたのですが、後で考えると、グループの中にまとめ役がいたりして、活動の後に相手の良さに気づいたりする振り返りが生徒には大切なんだろうなど実感できました。
- ・春からすぐに実践できるエクササイズを教えていただき、とても感謝しております。ゲーム感覚でソーシャルスキルを高めたり、集団の和を深めることができるので、生徒も楽しく参加でき、考えさせられる良い取り組みだと思いました。これからもよろしくお願いします。
- ・1学期を中心に「出会い」からはじまり「認め合う」に至るまでの流れとその中のエクササイズ例がとてもわかりやすく勉強になりました。「自己盲点」という新しい言葉も知ることができました。毎回自分達でするエクササイズがとても楽しみです。
- ・1時間が本当にあつという間で、時間が許されるのならまだまだ授業を受けていたいです。自分が体験してみて、とても充実した時間で、1つ1つの言葉が、自分の世界を広げ、深められた気がします。
- ・自分が生徒に伝えたいことを、生徒自ら気づかせる方法がたくさんあることに、大変おどろきました。もっといろいろ学びたいと思いました。次回も参加します。
- ・生徒同士が向き合ったり親密に話し合うことができるような細かな配慮が多くあることに、いつも驚き、とても勉強になります。色々な活動を知り、自分の技にしたいです。
- ・夢中になれるエクササイズとその背後にある理論を学べたので、次の実践へのモチベーションをいただきました。この学習会では理論も学べるので、その理論をふまえて、自分なりのアレンジをしたり、新たなエクササイズを考えたりできるので、とてもありがたいです。
- ・やり方のポイントや押さえどころ、声かけの仕方が聞きたいところです。そこをしっかりと聞いてもらえるので、本当に参加して良かった！と毎回思えます。声かけの仕方が「めからうろこ」という感じなので、いろいろ教えてください。今日教えていただいたのも、新年度、行おうと思います。